

177	164	164	155	98	98	84	61	60	55	15	13	8	頁
上段八行目	脚注28	上段九～十行目	下段一行目	下段三行目、 表の最下段	上段十五行目、 表の最下段	下段、後ろから 六行目	写真6 玉城の慰霊塔 (2018年)	下段六～七行目	上段三～四行目	下段十二行目	一行目	下段四～五行目	行数・箇所
(5) 沖縄への帰還	二五頁	二三日夜には逃げ 回る和浦丸と暁空丸 が接触する事故も 起き	沖縄本島の	字仲栄眞	字仲栄眞	小隊長	掲載されている写真 は二〇一〇年に南 城市と南城市の遺 族連合会により建 立された、南城市 の慰霊之碑である。	玉城村の忠魂碑は 一九一八年(大正 七)に学校敷地内 に建立されたが、 戦後同場所に慰 霊の塔を建立した ため「破壊された 」(一南城市の慰 霊碑(塔)参照)	称 一九二六年には 沖縄連隊区司令部 に改	(実測)	佐敷村津波古	海上挺身第二十八 戦隊勤務第二小隊 の陣中日誌から	誤
7. 沖縄への帰還	九八頁	逃げ回る和浦丸と 暁空丸が接触する 事故も起き	沖縄における	字仲栄眞	字仲栄眞	少隊長	戦前の忠魂碑を転 用して造られた、 玉城村の「平和之 塔」の写真(撮影年 月不明)に差し替 え	玉城村の忠魂碑は 一九一八年(大正 七)に学校敷地内 に建立された。戦 後、忠魂碑は「平 和之塔」に名称が 変えられたが、玉 城中学校の敷地 拡張と新校舎の建 設のため一九六七 年から翌年にかけて 撤去された(第二 章第二節参照)	称 一九一八年には 沖縄連隊区司令部 に改	(実測)	佐敷間切津波古村	海上挺身第二十八 戦隊勤務第二小隊 の陣中日誌から	正

455	455	455	433	432	420	420	420	419	414	219	200	193	191	177
上段、 後ろから七行目	上段、 後ろから八行目	上段十 十一行目	図中	図中	表1のNo.11の「設置時期」	表1のNo.11の「管理した部隊」	表1のNo.8・9	図1	写真3	表1および図1の大里村の疎開時期	上段、 後ろから五行目	上段、 後ろから八行目	下段八行目	上段、 後ろから四・三・二行目
勇飛しているでしょうね	「特攻隊の活躍はすばらしいね。 〈略〉	「他人が受験に行くと言われると、何だか心が乱れがちになる」	独立迫撃砲第4中隊	独立迫撃砲第9中隊	(空白)	「識名給水部隊」(第二十七野戦防疫給水部)か	設置時期	慰安所が設置された場所(南城市域)	列車爆発地点(2020年)の写真	二月	一九四五年	母親、妹、従兄弟家族と一緒に	食料増産	大里第一の学童たちも、この十月三日熊本駅発の列車で乗船地の佐世保港に向かったと考えられる。
勇飛しているでせうね	「特攻隊の活躍はすばらしいね〈略〉	「他人が受験に行くと言はれると何だか心が乱れがちになる」	独立迫撃砲第4中隊	独立迫撃砲第9中隊	四月三〇日～五月十八日	第二十七野戦防疫給水部(「識名給水部隊」)	時期	慰安所が設置された場所及び「慰安婦」がいた場所(南城市域)	写真3の地点から北西に約百メートル進んだ地点の写真に差し替え	二月・三月	一九四四年	母親、妹と一緒に	食糧増産	一次グルーブの学童がこの時まで種山に残っていたれば、この十月三日熊本駅発の列車で乗船地の佐世保港に向かった可能性はある。一方、饒平名による二次グルーブは福岡の港から沖繩へ帰ったという(事務局による聞き取り二〇一七)。

503	500	500	500	499	496	496	494	494	474	473	466	466	461	455
上段七行目	下段、後ろから一行目	上段、後ろから二行目	上段、後ろから三行目	下段、後ろから三行目	上段、後ろから三行目	上段、後ろから五行目	下段二行目	下段二行目	上段一行目	下段八行目	「沖縄県立工業学校二年の上原康彦の 「沖縄戦時の状況」	「沖縄県立工業学校三年の金城善助の 「沖縄戦時の状況」	下段、後ろから五行目	上段、 後ろから七・六・五行目
六人の兄妹	軽便鉄道稲嶺駅手前の南風原村神里集 落を通過中の	村内でも稲福集落の弾薬壕	陸軍病院壕掘り	南風原村の黄金森の陸軍病院壕	警察には、「探偵」といって軍を批判 する人を嗅ぎ付ける仕事をする私服の 刑事がいた	当銘	そのうち与那原地区在住だった	大里村民の二五六一人が戦死した。	首里山川の	任務を終えると玉城の役場裏の壕に あつた陣地に戻り、	不明	防衛隊か	戦死している	「姉さん小生も実も洋服が古くなつて 困っているね。特に卒業後の洋服が無 くて困るね。去年買つておけばよかつ たが」
六人のきょうだい	軽便鉄道稲嶺駅手前を通過中の	村内でも弾薬壕	陸軍病院の壕掘り	南風原村黄金森の陸軍病院の壕	警察には、軍を批判する人を探偵のよ うに嗅ぎ付ける仕事をする私服の刑事 がいた	當銘	与那原町地域在住だった	大里村民（現在の与那原町地域に住 んでいた人を除く）の二三七八人が戦 死した。沖縄県教育庁文化財課史料編 集「沖縄県教育委員会 第二〇一七 戦」沖縄県教育委員会 二〇一七 （一三頁）。	首里崎山の	任務を終えると陣地に戻り、	工業通信隊か	学徒隊あるいは防衛隊か	戦死したと思われる	「姉さん小生も実も洋服が古くなつて 困っているね。特に卒業後の洋服が無 くて困るね。去年買つておけばよかつ たが」

616	605	605	605	605	604	604	604	601	600	600	599	562	553	541	532	509
下段七行目および十行目	下段、後ろから四行目	下段六行目	上段、後ろから二行目	上段、後ろから四行目	下段、後ろから一行目	上段十行目	上段九行目	上段、後ろから五行目	上段十二行目および後ろから四行目	上段四行目	上段七、十行目	下段十行目	下段、後ろから三行目	下段、後ろから四行目	下段一行目 献穀田の歌の歌詞	上段六行目
九八式二〇ミリ対空／対戦車自動カノン砲	二門	三門	六門	十四門	狭い軌間	第十四海軍砲兵隊	第十海軍砲兵隊	四基の重速射砲	第十海軍砲兵隊	第十四海軍砲兵隊	また、「第十四海軍砲兵隊」「第十海軍砲兵隊」は、確認できていない。	改正原戸籍	兵対	久手堅	苗は御代	当時十歳
九八式二十耗高射機関砲	二発	三発	六発	十四発	狭軌	海軍第十四砲台	海軍第十砲台	重速射砲四基「Rapid Fire Guns 対戦車砲のことか」	海軍第十砲台「The 10th Naval Battery」	海軍第十四砲台「The 14th Naval Battery」	(削除)	改製原戸籍	兵隊	志喜屋	苗は蓬菜	当時九歳

747	746	746	743	742	690	663	640 ～ 641	638	638	636	634	634	632	625	623	622	620
第2章第1節の図1の引用元	(追加)	表中の第4章第4節と第5章第1節の間	1918年	1944年	下段十行目	上段の脚注1	六四〇頁の上段一行目から六四一頁の上段四行目まで	下段十一行目	上段十一行目	下段、後ろから四行目	下段、後ろから四行目	下段九行目	下段十行目	下段、後ろから五行目	下段四行目	上段十二行目	上段七行目
九六日命第一六四号			7 知念村青年会が	8 中城湾臨時要塞の重砲兵連隊は	昭和三十年	玉城村教育委員会生涯学習課	一九四五年五月から困難になっていた。	七五ミリDP「デグチャレフ型歩兵用火器(軽機関銃)のことか」一挺	膝撃ち迫撃砲	七五ミリの野砲	カノン砲中隊	膝撃ち迫撃砲	膝撃ち迫撃砲	膝撃ち迫撃砲	膝撃ち迫撃砲	白リン弾砲弾	十六インチ五〇口径砲
石九六日命第一六四号	置図(1945年2月3日) 吉浜忍	(追加) 第5節 沖繩戦前夜の日本軍配置図(1945年2月3日)	1 知念村青年会が	5 中城湾臨時要塞の重砲兵連隊は	昭和二十年	玉城村役場	(削除)	七五ミリDP一門(脚注:事務局では「DP」が何を意味しているのか確認できていない)	擲弾筒	七五ミリ野砲	カノン中隊	擲弾筒	擲弾筒	擲弾筒	擲弾筒	白リン弾	五〇口径十六インチ砲

766	766	760	760	749	748
下段、 □協力機関（県内）	上段、 後ろから四・三行目	資料1―18「別紙 分要図」のレファレンスコード 本部兵舎配宿区	資料1―18の資料名	表の最下段	第1章第3節 写真6
	沖縄国際大学吉浜忍ゼミの皆さん	C111110112500	九六日命第一六四号	南城市教育委員会文化課所蔵	玉城村の慰霊塔（2018年）
（追加） 沖縄県立埋蔵文化財センター	沖縄国際大学人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ （吉浜忍ゼミ）の皆さん （久場綾音・具志堅明・大城佑乃・佐久万愛・宮城咲希・大城綾・我友那・覇生・下村・世連・西原里香・廣瀬友那・佳上・美夢・簡佳・林雍華・李諾施・比嘉・利華・村田ゆこ・石川鈴華・榮・野川・義友・眞崎陽介・森根彩） 平田望・前田・友・眞崎陽介・森根	C111110112400	石九六日命第一六四号	南城市教育委員会文化課所蔵	玉城村の「平和之塔」（戦前の忠魂碑を転用。撮影年月日不明）

南城市教育委員会文化課